

令和7年度サービス管理責任者・ 児童発達支援管理責任者 基礎研修 演習事例

登場人物

- 本児：井上 翔平
- 父
- 母
- 相談支援専門員：北口 はるみ
（相談支援事業所「リングス」）
- サービス管理責任者：花巻
（就労継続支援B型事業所「フルトン」）
- 児童発達支援管理責任者：朝倉
（放課後等デイサービス「セブン」）

知的障害のある 18 歳学生の 移行期のサポート体制について

私は、就労継続支援B型事業所フルトンでサービス管理責任者として働いている。

特別支援学校卒業予定の井上さんの卒業後の利用先として、井上さんと母、相談支援専門員が見学し、後日体験を行った。

井上さんは、卒業後「行きたい」と希望している旨、相談支援専門員より情報提供がある。

プロフィール

氏 名：井上 翔平

性 別：男性

年 齢：18 歳

身 長：約 170cm

体 重：約 54kg ※出生時体重 2,400g

診断名：知的障害を伴う自閉スペクトラム症

(3 歳の頃、療育手帳(B)を取得する)

家族構成：両親と 3 人暮らし

祖父母は遠方在住

生活歴

就学前まで、児童発達支援センターを平日毎日利用した。市内の小学校（特別支援学級）に入学、入学時から週 1 回のペースで放課後等デイサービスを利用。

中学からは、特別支援学校に入学し、高等部へ進学。中学生から週 2 回放課後等デイサービス を利用している。中等部、高等部では通い慣れた環境下で、安定した学校生活を過ごした。

進路選択のための職場実習、施設実習など経験した。施設実習時の就労アセスメントを受けた際には、集中力が続かず、継続して働くことの難しさから、特別支援学校卒業後に就職することは困難との見立てだった。翔平さんの希望は、「お父さんみたいに働きます」「電車の本がほしい」と話している。

環境①<<地域性>>

人口は約 18万人、人口の約22%は 65 歳以上の高齢者であり、人口の4%にあたる約8千人が障害者手帳を保持している。県庁までは自動車で1時間、電車で30 分程度かかる。産業は、昔ながらの造り酒屋や沿岸部では牡蠣や海苔の養殖もおこなわれる。また工業も盛んであり、ここ最近はハイテク産業の導入も進む。大きな大学があることから学園都市でもある。公共交通機関は JR、公共バスがあるが、自動車が移動手段の中心である。

環境②<<社会資源>>

児童福祉サービスは、通所支援事業所 15 か所あり。障害福祉サービス事業は、市内の社会福祉法人や NPO 法人により、就労継続支援 A 型、B 型、生活介護、生活訓練、就労移行支援の各事業が整備されている。相談窓口として、基幹相談支援センター1か所、特定相談事業所・障害児相談支援事業所13か所、障害者就業・生活支援センターは 1か所ある。

翔平さんの希望

「お父さんみたいに働きます」

「電車の本がほしい」

自動車が好き。散歩が好き。電車等の絵を描くことが好きで、校内で賞を取ったことがある。

外出することが好きで表情が明るくなる。

家族の希望

将来の自立に向けて卒業後は工賃が得られるような場所で働いてほしい。

ただ、心配もたくさん。

母親は、つい先々に言葉が出てしまう。

幼いころからのエピソード 《母親より》

1歳を過ぎたころはとにかく動き回り、どこへ行くか分からず、目が離せませんでした。夜も毎日途中で起きて大泣きし、車に乗せてドライブして寝かせていました。

3歳になって診断を受けて療育手帳を取りましたが、お医者さんから「自閉症」と言われた日から1か月近くはつらくて毎晩泣いていました。

児童発達支援センターでは、新しい環境に慣れず、入園してからしばらくは電車のトーマス達4台を両手に持って登園していました。年長のときに、いつの間にか家から居なくなり、警察にも搜索してもらいました。2時間くらい探して2～3km離れた駅で電車を眺めていました。あの時はぞっとしました。

小学生のエピソード

《母親より》

小学校の運動会など集団の活動では、一人固まっていた。今思うと、何をしてるのか理解できていなかったのだと思います。周りの子より幼く見える我が子を、ほかのお母さん達は可愛いと言ってくれましたが、私は不安で仕方ありませんでした。こだわりもあり、服のタグがきになって、全て切りました。小学校の、通学カバンは新しいものは嫌がり、破れてボロボロになっても同じものを6年間使い続けました。私の大切な宝物です(泣)

小6の時の修学旅行。初めて私たちと離れてお泊りでした。どうなることかと心配しました。終始表情がこわばり、行く先で固まっていました。ただ、行き帰りの新幹線と大阪駅の構内では大喜びで先生や友達に電車の話をしていたそうです。

中、高等部でのエピソード

《母親より》

中、高等部に上がった頃には、イベントやクラス替えなど変化の多い時期には不安定な様子が見られましたが、それ以外は、自己主張することもなく、とても受け身な態度でした。親としては自分の思いをきちんと表すことができているのか、社会に出て行く機会が限られるのではないかと心配になりました。

放課後等デイサービスのスタッフや学校の先生などにアドバイスを受けながら、翔平の理解の仕方や捉え方の特徴を理解し、翔平にわかるように伝えることを大切にしながら、育ててきました。

関係者意見①

＜＜特別支援学校 高等部＞＞

保護者の希望は、「将来の自立に向けて卒業後は工賃が得られるような場所で働いてほしい」と把握している。職場実習を経験したが、落ち着かない様子だった。

職場実習先では、作業を簡単な指示書の提示により作業遂行能力の見極めを行ったが、全体的に理解力、集中力、持続力が低かった。本人用に課題設定をする必要があった。

福祉事業所での体験実習では、理解のある職員のもとでの活動のため、比較的穏やかに過ごし、表情も良かった。

関係者意見②

＜＜就労移行支援事業所＞＞

就労移行支援事業所にて就労アセスメントを実施。

新しい環境下で集中力が続かない、作業を遂行できない面があった。

卒業後はすぐに就労するのではなく、翔平さんを理解できる福祉事業所において、働く経験を重ねていくことから始める支援が望ましい。

関係者意見③

<<放課後等デイサービス「セブン」>>

小学校時代から、利用している。

リラックスした様子で過ごすことができる場所。絵を描くことやおやつを 楽しみ、簡単な手作業や創作活動を行って過ごす。

スケジュールの提示を行うことで、スムーズに過ごすことができる。